

別紙様式1

令和5年度 学校評価表

(中間・最終)

学校名 三原市立西小学校

校番(05)

a 学校教育目標		地域に愛着と誇りを抱き、 夢の実現に向け自ら学びを求め、行動できる子どもの育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得、心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校									
評価計画						自己評価					改善方策		学校関係者評価		
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
												イ	ロ	ハ	
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	84.6% (67.1)		84.6% (67.1)	B	○各月45時間を超えない達成率 ※()内の数字は令和4年度 4月73.0%(36.0) 5月80.7%(64.0) 6月65.3%(32.0) 7月100.0%(88.0) 8月100.0%(100) 9月92.3%(56.0)	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・短期スパンによる計画的な業務遂行 ○会議の精選と周知方法の改善 ・ICTの効果的活用 ・スケジュール管理の徹底	5/6人		1/6人	・昨年に比して働き方改革を着実に進めている。 ・個別指導や学力補充などの時間確保と矛盾する点もあるが継続してほしい。 ・アナログ教育の温かみ、デジタル教育環境のスピード化互いに肯定できるも板挟みの状況。改善は自己の責任。 ・目的は何なのか。相反することなので評価しづらい件と思う。
確かな学力の育成	主体的に学ぶ合う児童を育成し、学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して、本校で育成を目指す資質・能力をもった、自ら学ぶ児童の育成を図る。	本校の研究主題に全員で取り組み、仮説の検証のために計画的な実践研究を行い、研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。	『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート	85%以上	93.0%		109.4%	A	論理的思考力に関するアンケートの結果、とても42.8%、まあまあ35.3%となり、根拠に基づいて発言することを意識した姿は増えてきている。 しかし、書かれていることと自分の経験や知識を結び付けたり、情報を整理・分析して考えたりすることには課題がある。	・発言の際、根拠を示して説明することを意識づける。 ・自分の経験や知識を想起させ、具体的に想像できるようにさせる。 ・中学年以上は、根拠を複数挙げる発言例を示し、情報を結び付けて考えることを指導する。また、前学年を通して、三角ロジック(根拠、理由付け、主張の三点セット)での発表を意識づける。	4/6人		2/6人	・改善策の実現のために指導者が三角ロジックを意識した話し方をしているか。 ・思ったこと感じたことをまず言葉や文章にしてい く取組や、読書を通してより多様な文章に触れさせることが必要である。 ・クロムブックの活用において個別最適型の学習に関し、発展学習が可能な児童にはより以上の指導ができそうだが、そうでない児童は働き方改革の時間的配分に阻まれるのではと心配。 ・アンケートの自己肯定感については、本人の性格や家庭教育もあり評価しづらい。 ・様々な種類の文章の読解に慣れさせる改善方策はよい方法と思う。 ・もっと活字に親しんでほしい。
			西小学校全校で読解力を高めるドリルに 取り組み、本文や資料を根拠にして読み取る力を高め、学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	①全国学力・学習状況調査平均値正答率 ②NRT国語偏差値平均 ③学期毎単元末テスト「読むこと(思判表)」平均	①県対比108%以上 ②54以上 ③80点以上の学級80%以上	①県平均＋1 ②52.6 ③54.5%	①93.5% ②97.6% ③68.1%	①B ②B ③C	①全国学力・学習状況調査国語科の平均正答率は70(県平均69)だった。内容ごとに見ると、「話す・聞く」78.6(県＋3.5)、「書く」28.1(県－0.9)、「読む」75.0(県＋1.7)となり、「書く」ことがわずかに県平均を下回っており、「読む」ことの差も県平均＋8を下回っているが、4、5、6年生で昨年度を下回っている。 ③学期毎単元末テストは目標値に届かなかった。しかし、学期末テスト「たしかめよう」では、平均80点以上の学級は52.9%(全校平均点75.5点)であり、初読の文章は正答率が低かった。	・条件に沿って書くことを日常の授業にも取り入れる。 ・「精査・解釈」の場面で想像したことを書く場面を設定し、表現させる。 ・単元末テストを実施する前に、学習内容が理解できているかを復習する時間を学年で設定する。 ・教科書教材以外の読解プリントに取り組み、様々な種類の文章の読解に慣れさせる。 ・クロームブック等を活用した個別最適型の学習を進めていく。	5/6人		1/6人		
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して、社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して、豊かな感性・豊かな心の育成を図る。	学年(学級)ごとに児童の実態に応じた合唱に 取り組み、仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動(詩や短歌・俳句等の音読・暗唱)を通して、自己表現に自信を持たせる。	『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	80%以上	76.4%		95%	B	・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で5.8%(28人)いる。また学年が上がるにつれ、否定的評価が高くなっている。 ・道徳や学活、帰りの会を中心に、達成感・充実感をもたせる活動に全体で取り組めたが、自己肯定感が低い児童へ個別の支援ができていなかった。	・今後も、達成感・充実感を持たせるような活動を仕組んでいく必要がある。 ・引き続き「今日のキラリ」のような全体の雰囲気や個人の自己肯定感を高める活動を行っていく。 ・委員会やクラブ活動などで高学年が活躍する場を作り、高学年の肯定的評価が高くなる取組を、各学年と仕組んでいく。	5/6人		1/6人	・自己肯定感や充実感の向上のため改善方策を確実にしてほしい。 ・異学年評価や他者評価の場面がより多く設けられるとよい。 ・自己肯定感が低い児童への支援は家庭との連携が大切だと思う。 ・自己実現に向け、学び求め行動しうる児童の育成という目標に関して、普段の朝の挨拶の感覚が何か少しずつ変わってきている感がある。
		特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して、地域を想う心情を育てるとともに、社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	特色ある地域の学習材や人材の活用、交流を通して、「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み、社会貢献意識や規範意識の向上、お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して、ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。	『貢献意識』に関する児童アンケート肯定的評価	90%以上	82.7%		91%	B	・特別活動等で、役割を果たすことに対する達成感・充実感をもたせることができた。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で2.3%(11人)いた。	・友達を肯定的に評価するような「今日のキラリ」のようなものに引き続き取り組んでいく。 ・ふるさと学習や感謝の会等で児童が活躍する場を増やし、役割が果たせる活動を各学年と仕組んでいく。 よりよい学校づくりに関する児童の考えを児童会活動を通して学校に反映させ、児童に達成感・充実感を持たせる。	5/6人		1/6人	
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ、自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに、課題克服のための取組(校内研修、外部講師による児童への直接指導、小中連携等)を充実させ、教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②児童アンケートの外遊びをすることへの肯定的評価	①70%以上 ②80%以上	①% ②81%		100%	① ②A	①体力テスト全国及び県平均値がまだ出ていないため、課題や分析はできていない。 ②外遊びの肯定的評価は81%であった。(前年比3%↑) 否定的な評価の児童が19%であり、前年度に比べ3%の改善ができ、目標値を達成することができた。しかし、学校での外遊び時に遊んではいけないところだけがをする児童も見られた。遊び方やルールにも課題がある。	・体育委員や教員による休憩中の外遊びの声掛けをしたり、児童朝会を利用してルールの確認をしたりする。 ・縄跳び大会や5分間走などの体を動かす行事を取り入れ、体を動かす楽しさを味合わせる。 ・体力アップは、宿題としてだけではなく、体育の授業の始めにも毎回取り組んでいくようにする。	5/6人	1/6人		・外遊びの元気な声がよく聞こえる。外遊びの声かけを怠らないようにしてほしい。 ・目標値を80%以上にすべきではないか。 ・給食を食べる時間を十分確保できるよう取組み、成果が出ている。
		食教育や保健・安全教育の推進により、自己管理能力の育成を図る。	保健指導や委員会活動などを通して、児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り、児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75%以上	78.0%		104%	A	・給食を時間内に食べきっているのは78%であった(前年比8%↑)。前年度に比べ8%の改善ができ、目標値を達成することができた。しかし、各学年の様子を見ると食器の準備が遅かったり、片づけの時に食べ残しがあったりする。 ・アレルギー対応についての研修を4月に行い、給食対応が必要な児童についての情報共有を行った。しかし、アレルギーが新たに診断された児童もいるので再度対応の確認が必要である。	・準備を早く終わらせるための配り方や時間の使い方の指導を継続して行っていく。また、片付けるときのポイントも教員の間で共有し、指導を行っていく。 ・アレルギー対応が必要な児童を再度職員の間で共有する。また、診断がなくてもアレルギーのような症状が出た場合の対応も職員全員で確認する。	6/6人			・アレルギーなど給食対応については、児童の変化する状況把握に努めること。 ・給食時間の25分間を超過した児童の顔末にどんな影響がでるのか。

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。